

72 「中日両国疫病史対照年表」作成
にあたって

邵 沛

疫病の流行は歴史の流れを急変させる重大な結果をもたらし、古代から現代まで一貫して人間社会に深い影響を与え続けてきた。

「中日両国疫病史対照年表」は、中国と日本における紀元前一一〇〇年から紀元一九四九年までの三千年間の主な史書の考証と、各時代医学家の伝染病について著した主要な医学書に基づき収録したものである。年表を作り上げて見ると、両国の疫病の流行回数是中国六一九回、日本四〇八回である。日本の記録が始まるまでの、紀元前一一〇〇年から紀元五四八年の中国では九〇回の記載がある。

中国の歴史書にでてきた疫病流行について病名がわかるものは少ない。明清時代の地方誌と医学書籍に載るも

のを見ると、疫疾流行の回数は、漢書一七回、後漢書二五回、三国誌一六回、晋書四〇回、宋書二三回、南齊書、梁書等二〇余回、唐書一六回、宋史三五回、元史一〇回、明史二三回、清史稿は三〇〇回である。

年表中の疫病の種類は、癩病 赤痢 肥前瘡 マラリア 痘瘡 狂犬病 流行性脳炎 肺結核 ハシカ インフルエンザ お多福風邪 ジフテリア ペスト コレラ 猩紅熱 回帰熱 住血吸虫病 発疹チフス 小児麻痺 風疹など大体二〇種類がある。

1、戦争と疫病

古来、戦争によってどのように多くの疫病が流行したかは、年表の記載からある程度わかる。戦争が、肉体的疲労、食料の不足、不衛生な環境における人口の密集などの事態を招き、疫病が発生しやすい条件を作る。唐代前に戦中戦後に発生した疫病は、疫病流行の総数の四分の一である。軍隊の移動による疫病の伝染も見られる。特に遠征によりある地方に疫病が伝搬するきっかけを与えていることがわかる。

2、人口状態と疫病

早期の人類の歴史には飢饉性の病氣、疫病が多く見られるが、相対的高血圧、心臓病、癌などは少ない。古代、人口の増減には、戦争、災害、飢饉、疫疾、婚姻状態などさまざまな要因が関与していることがよく知られている。中国では一八四〇年から一九四九年まで一〇九年の間に、人口が一億三千人しか増えず、毎年平均増加率が〇・二六％に留まったのは、この一〇九年間の戦争頻繁、疫疾流行と関係がある。また人口の増減と都市の発展及び文化の発達とは繋がりがあがる。例えば、水泡ウイルスが存在できるのは数十人以上、疱疹ウイルスが二十人以上の人口で生存する、麻疹ウイルスが五〇万人以上の群落には生存する。そのほか、狂犬病、脳炎、発疹チフスなど動物疫源性疾病は、動物群落の分布によってきまる。研究によると、人類特有の伝染源疾病である麻疹、痘瘡、コレラ、チフスなどは、都市発展と人口集中と関係があることが判明している。

また疫病が外来文化の導入と同時に広がることは、日本の疫病史で明確に認められる。疫病史は文明史、社会史、世界史などと関係が深い。二一世紀にも感染症は注

目される病氣になると思われる。人類と色々な微生物との永遠の戦いについての考察が求められるようになるだろう。

本稿を記すにあたり、酒井シヅ教授にご指導いただいたことを深謝します。

(順天堂大学医史学研究室・白求恩医科大学)